縦のつながり・横のつながり

今日の３時間目の出来事です。

あるクラスが １ 階のラーニングコモンズで整列し、２ 階にある教室に戻ろうとしている姿が見えました。

列の先頭にいる先生はしきりに英語で指示を出しています。

「lineup！straight！」

１年生にとっては、真直ぐに並ぶということだけでもかなりの難しさを要します。

第一に自制心の壁です。

友達と話したい、体を自由に動かしたい、こうした自分の中にある衝動を自制心という力で乗り越える必要があります。

この自制心は、すぐに身につくものではありません。

姿勢を正して本を読んだり、鉛筆の持ち方を整えたり、少し自分で意識しなければできないことを継続することで徐々に身につくと言われています。

第二に身体感覚の壁です。

今度機会があれば詳しく書きますが、体を揺らしたり、物や人の体に触れて「脳や心の安定」を得ている子たちが一定数います。

そうした身体的ニーズは自制心だけでは乗り越えられない場合があります。

また、大人の視点から見れば「真直ぐ」という状態は一目瞭然ですが、子どもたちの低い視点から見ると列を真直ぐかどうかは中々分かりません。

様々な感覚のニーズやハンデを越えて「列を真直ぐ」することはとても難しいことなのです。

第三に、言語の壁です。

日本語での指示はクリアに聞けても、英語での指示は簡単なものでも中々全員には入らない現状があります。

それでも、SOLAN はそうした仕組みで進んでいる学校なので、ここにも慣れていく必要があります。

話を戻します。
なかなか列は整いませんでしたが、次の授業のこともありひとまずクラスでの移動が始まりました。
その時、列の一番後ろにいたある子が筆箱を落としてしまい、さらに列から大きく遅れてしまいました。
遠目に見ていた私は思わず手伝いに行こうかと思いましたが、その時すぐさま駆け寄ってきた子がいました。
同じクラスの男の子でした。
その子はサッと鉛筆や消しゴムを拾って筆箱にしまうと、その子の所に手渡しに行ったのでした。
階段を上りかけた所から戻って来た姿も、さも当たり前かのように友だちの筆箱を拾ってあげる姿も、それはそれは美しい姿でした。
まるでそこにだけスポットライトが当たっているかのような光景でした。

入学してから１か月が過ぎ、少しずつ子どもたち同士の横の繋がりも増えてきたように思います。
教師と子どもの繋がりを縦糸とするならば、子ども同士のつながりは横糸と呼ばれます。
学級という場所では、この縦糸と横糸、どちらの存在も大切です。
縦のつながりと横のつながり、どちらも豊かに紡いでいけるように学習活動を組み立てていきたいと思っています。

さて、プロジェクト学習では「SOLAN マップを作ろう」の活動が始まりました。
校内の様々な場所を探検し、他の人を案内できるように学校の地図を作る学習です。
すでに子どもたちはたくさんの場所を訪れ、地図の素材に使うための写真を次々と撮っています。

写真を撮った後はレポートをまとめるわけですが、この一連の学習活動の中で様々な力が必要となります。

それは国語の学習然り、算数の学習然り、情報の学習然りと実に様々です。

この「教科をまたぐ」というのがプロジェクト学習の大切な特徴です。

尚、SOLAN のカリキュラムの大きな特色でもある「習得→活用→探究」の３ステップの内、活用に当たるのがプロジェクト学習です。

「習得」は教科の学習（国語や算数など）を中心に、学習全般を進める上での必要な知識や技能を得る学びです。

現在であれば、ひらがなの「読み方」や「書き方」を習ったり、算数の「なかまわけ」や「数え方」を習ったりしていることがそれに当たります。

個別のスキルや知識を学ぶことが習得です。

野球で言えば、「すぶり」や「キャッチボール」の練習をしていることと似ています。

とても大切な練習ですが、すぶりやキャッチボールをしているだけでは野球の試合には勝てません。

自分の技や知識を実戦的に使ってみる場面が必要です。

野球で言えば、練習試合に当たるでしょう。

自分の磨いてきたバッティングは通用するのか。

練習を重ねてきた守備は試合でどのように生きるのか。

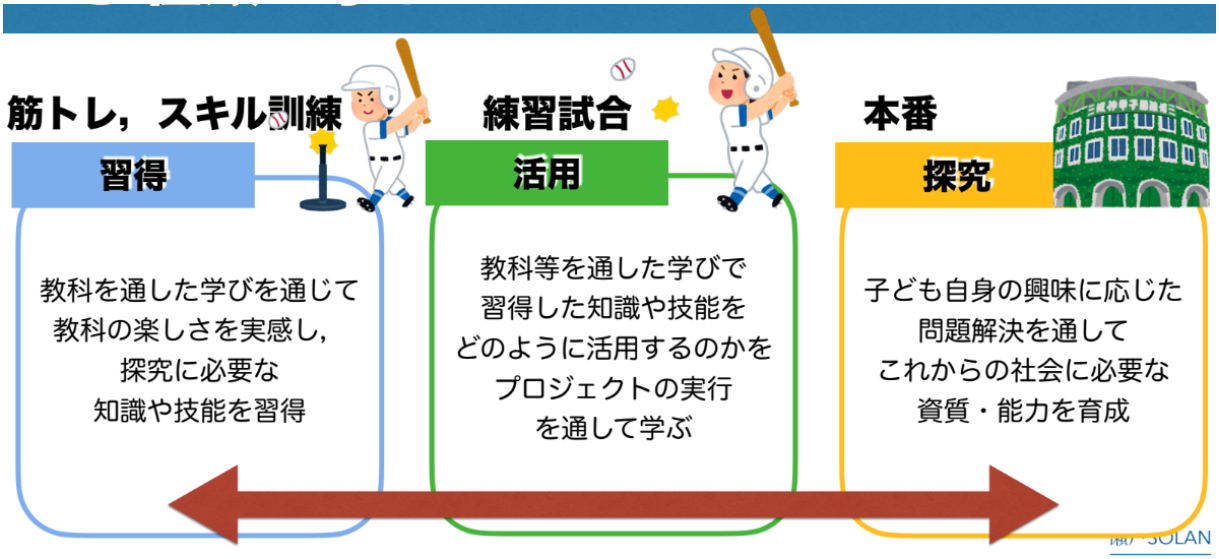
こうしたことは、実際に試合で試してみないと分かりません。

そして、練習試合の後には様々な学びが得られるでしょう。

「まだまだバッティング練習が足りないな。素振りの回数を増やそう」のような気づきがそうです。

プロジェクト学習は、この練習試合に該当する学びです。

図に表すと次のようになります。



そして、幾度かの練習試合を重ねたのちに、より本番に近い形での問題解決を学ぶのが「探究」です。

子どもたちは SOLAN マップを作る中で自分の培ってきた学びを発揮したり、足りない知識について質問ができるようになってきています。

「先生、『ぎょ』ってどうやって書くの？」

と自分の書けないひらがなを質問に来たり、

「先生、ラーニングコモンズに背もたれの無い椅子が７こあったよ。」

と「なかまわけ」の概念を使って数を正確に数えたり、他にもアイパッドで写真を撮ったり、その写真を見ながらレポートにまとめたりと、実践的に学びを組み立てる姿が少しずつ見られ始めてきています。

現代の日本の学校教育の一つの課題は、個々の知識やスキルを高めることに重点が置かれすぎていて、それを実際に使う学習場面が少ないことです。

そこを乗り越えるために SORAN で独自に設けられている「プロジェクト学習」や「探究学習」です。

子どもたちの学びの足跡を、今後もコスモスハーモニーでお伝えしていきます。（文責：渡辺道治）

１学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ (google.com)